

体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト

「チャレンジ&チェンジ！2024」-海拔0m～3,000mへの挑戦-

1 ねらい

・富山県の雄大な自然にふれながら、海拔0m～3,000mを自力で踏破することにより、仲間との絆を深め、仲間とともに達成感を味わい、課題解決力を育む。また、小学生と中学生の異年齢による集団において、長期間、様々な人と関わりながら一緒に活動に取り組むことで、主体性、社会性を養うとともに、豊かで自立した人格形成の基礎を培う。

2 期日

事前説明会	：令和6年7月15日（月・祝）	【日帰り】
ボランティア研修会	：令和6年7月20日（土）～21日（日）	【1泊2日】
事業本番	：令和6年8月4日（日）～13日（火）	【9泊10日】

3 対象

小学校5年生～中学校3年生

4 募集人数 / 応募人数 / 参加人数

18名 / 25名 / 18名

5 講師・スタッフ

【ボランティア研修会】

立山ガイド協会・登山ガイド 大塚 憲一 氏

法人ボランティア7名

国立立山青少年自然の家職員5名

【キャンプ】

富山県[立山博物館] 学芸課長 奥澤 真一郎 氏

国立登山研修所 専門職 黒川 和英 氏

立山ガイド協会・登山ガイド 大塚 憲一 氏

看護師 舟川 絢子 氏

法人ボランティア7名

国立立山青少年自然の家職員8名

6 共催・後援・協賛・協力

共催：（独）日本スポーツ振興センター 国立登山研修所

後援：富山県教育委員会 新潟県教育委員会 立山町教育委員会 北日本新聞社 Net3

協賛：アサヒ飲料株式会社北陸工場 大塚ウェルネスベンディング株式会社

株式会社池田模範堂 かわもとスポーツ トヨタモビリティ富山株式会社

日の出屋製菓産業株式会社立山本店 横山冷菓株式会社

協力：あわすのスキー場 立山あるぺん村 立山ガイド協会 立山町立雄山中学校

立山室堂山荘 天狗平山荘 天望立山荘 富山県立山カルデラ砂防博物館

富山県[立山博物館] まんだら遊苑 富山市立浜黒崎小学校

7 日程

①事前説明会

日付	午前	午後
7月15日 (月・祝)	・スタッフ紹介 ・事業のねらい説明 ・食事・飲料水・会計等説明 ・保険・活動写真配布について説明 ・持物・レンタル品説明	◇保護者 ・参加者の健康状況について聞き取り、活動についての質疑応答 ◇参加者 ・ボラと交流活動

②ボランティア研修会

日付	午前	午後	夜
7月20日 (土)	・自転車行程下見 浜黒崎海岸→常願寺公園→あるぺん村→山野スポーツセンター		・細案読み合わせ ・安全管理研修
7月21日 (日)	・登山行程③下見 室堂→一の越→雄山→大汝→一の越→室堂		

③事業本番

段階	日付	午前	午後	夜
助走	8月4日 (日)	・出会いの集い	・班タイム ・野外炊事	・班タイム ※自然の家泊
	8月5日 (月)	・マウンテンバイク練習 ・立山ジョイフレンド	・森の遊び場づくり ・焚火	・班タイム ※自然の家泊
ホップ	8月6日 (火)	・自転車行程 浜黒崎海岸→常願寺公園→あるぺん村→山野スポーツセンター		・班タイム ※山野スポーツセンター泊
	8月7日 (水)	・ゲレンデアクティビティ (あわすのスキー場)	・歩行行程 あわすのスキー場→登山研修所	・班タイム ※登山研修所泊
	8月8日 (木)	・立山開山についての講話 ・カルデラ砂防博物館見学	・まんだら遊苑見学 ・立山駅散策	・班タイム ・パッキング ※登山研修所泊
ステップ	8月9日 (金)	・登山行程① 千寿ヶ原→美女平→弘法→弥陀ヶ原		・班タイム ・星空観察 ※立山荘泊
	8月10日 (土)	・登山行程② 弥陀ヶ原→天狗平→室堂		・班タイム ※室堂山荘泊
ジャンプ (未来へジャンプ)	8月11日 (日)	・登山行程③ 室堂→一の越→雄山→大汝→一の越→室堂		・班タイム ・星空観察 ※室堂山荘泊
	8月12日 (月)	・室堂散策 ・班タイム	・ファイナルパーティ準備	・ファイナルパーティ ※自然の家泊
	8月13日 (火)	・班タイム ・別れの集い		

8 参加者からの事後アンケート

- ・ぼくは、何でも辛くなったらあきらめてしまう自分を変えたくて参加しました。最初は知らない人しかいない中で、不安だったけれど、だんだんとみんなと仲良くなれて、本音で話ができるまでになりました。自転車では、最後まであきらめずにゴールできたし、声が枯れるくらいに仲間を応援することができました。班の中では、最初はあまり意見を言うことができなかったけれど、徐々に話し合いにも参加し、意見を言うことができるようになりました。登山の1日目には、声かけや伝言があまりできなかったけれど、その日にみんなで班の改善点について話し合い、次の日には声かけや伝言ができるようになりました。さらに、山頂アタックの日には、ハイタッチをしたり、「がんばったね、お疲れ様！」と互いに言い合ったりできました。班の目標の「仲良く協力して挑戦しよう」をみんなで達成でき、自分自身の「自分から意見を言えるようになる」という目標も達成することができました。今回の「チャレンジ&チェンジ」に参加して、なりたい自分になったし、これからもなりたい自分になれるようにどんなことにもあきらめずに挑戦していきたいと思いました。
- ・私は、チャレチェンで「自分の行動に責任をもつ」「周りを見て何ができるか考える」「自分の意見をしっかり言う」ことをめあてにしていました。チャレチェンが終わり、3 か月が経った今、自分で成長を感じてきました。中学校のクラスの中では、自分の仕事を忘れずに行うことができています。チャレチェンで、一人一人の存在や一人一人の言動が大きな影響を与える、と学んだことが生かされています。また、チャレチェンで一つの目標を目指してみんなで取り組む中、自分にできることを探し続けたことで、クラスや部活動でもごみを拾ったり電気を消したりするなど、自分にできる小さなことにも取り組んでいます。さらに、毎日の振り返りを続けたことで、学校でも自分の意見を言えるようになり、分からないことは分からないと正直に言えるようにもなりました。自分でも気付かないうちに、これらのことが当たり前になるようになっていたので、「10 日間で人は変わることができる」ということに驚きました。

9 成果

- ・キャンプでの成長の段階を「助走」「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」とし、キャンプのはじめのつどいで各段階でのねらいを明示することで、自分たちの成長や立ち位置を確認しながら活動を進めることができた。
- ・「理想のリーダー像」や「本音で語ろう」など、リーダー会議や毎日の振り返りタイムに、意図的な課題の提示をすることで、子供たちの意識が高まったり、より深い人間関係を築いたりすることができ、さらに「みんなで」キャンプをつくっていく自覚を促すことができた。
- ・「助走」の段階では、仲間づくり活動を十分に行之、安心して仲間と一緒に活動に取り組めるプログラム構成にし、「みんなで」課題に取り組む雰囲気づくりを行うことで、最後まで目標を明確にして進めることができた。
- ・キャンプのアドバイザーである富山国際大学の松山先生の助言をもとに、子供同士の関わりの在り方や振り返りについて協議することで、よりよい人間関係づくりと振り返りの方法をボランティアと共有することができた。
- ・登山行程に看護師も随行することで、熱中症の予防やけがに対して早急に対応でき、安心して登山行程に臨むことができた。

10 今後の課題

- ・毎年熱中症対策を十分に行って活動を進めているが、参加者がさらに安心して活動に取り組めるよう自転車行程も看護師が随行し、現場で対応に当たることができるようにする必要がある。
- ・今年度は、各班に2名のボランティアリーダーを確保できた。来年度も各班に2名以上のボランティアリーダーを確保のため、柔軟な参加日程の対応や募集、広報を行う必要がある。また、職員数の減に伴い、プログラム構成やプログラム内容の検討が必要である。